

平成25年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校附属中学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 一貫校である本校の特色を生かした「自らが考え、判断できる、知と心を備えた聡明な人材」の育成
重点目標	1. 学習習慣を確立し、確かな学力の向上をはかり、各種検定チャレンジに努める。 2. 幅広い視野に立ったライフプランニングできる人材の育成に努める。 3. 礼儀やマナーを大切に、自他を尊重できる人間関係の構築に努める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度目標					年度評価 (3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、1年生が4クラスになり、クラス間の学力差が広がらないように注視する必要がある。 学習意欲の低下や理解が不十分な生徒に対する指導の強化を図ること。また、授業内容の理解がなされているかどうか注意深く見守ること。 質問に対する対応は、質問カードや朝自習のほかにできるだけ、生徒の要望に応じていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けての取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの定期考査の結果について、学年ごとに、指導の必要性がある生徒がいるかどうか検討すること。 チェックノートの授業評価を生徒と保護者に認識のずれがないように、意思疎通を図るようすること。 生徒の問題解決が速やかにおこなわれたかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ある一定の水準に達しない生徒の把握と、解決の手立てがなされたかどうか。 授業評価が適切に、自己評価がなされ、その教科の学習に反映されているかどうか。 授業に対する満足度が大きいせいか、質問することに対して、積極的に行動できるようになったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不良者に対して、担任と教科担任以外で、学習支援を行い、日ごろの学習状況の把握と、学習相談を行いながら、学習を促した結果、理数教科において、2学期で半数の生徒に改善がみられ、3学期においては、残り2/3の生徒に改善が見られた。 チェックノートにおける生徒自身による授業評価は、統一した評価をつけるための指針が必要であることが分かった。感覚でつけるのではなく、こういう場合はこの評価と一定の基準をもうけてはどうか。特に、理解が進まない、学力向上につながらない教科について検討が必要である。チェックノートの授業評価と学習課題がリンクするような形にしていくことが望ましい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習理解チェックノートの活用の仕方について、担任と教科担当者さらなる連携が必要である。特に、理数教科については、生徒自身による授業評価の仕方について、授業内容の理解がなされぬままに、放置されないようにするにはどうしたらよいか。工夫が必要である。 成績不良の生徒に対する教科学習指導において、担任と教科担当者の指導のほかに、教務による学習の取り組み方の問題点の発見・改善に役立つような指導を個別に行うようにすること。
2	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より、学年別のキャリア教育の方向性がはっきりしてきたので、当面継続を図りつつ、さらなる進化・発展・整合性を目指して、改善を進めること。 進路講演会の校務分掌が明確になって2年目になり、各学年からのメンバー構成になったため、要望は反映されやすくなった。 また、どの程度要望に応えられるようにするかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業の理解を深める取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年は、企業の出前授業を活用する。2学年は、企業見学及び体験学習する。3学年は、大学訪問と学部を理解する。 進路講演会では、事前指導や事後指導において、生徒が十分に組み、活用できたかどうか評価すること。 3年生は、3学期に専門家による専門分野の出前授業により、その基礎知識を学び、進路指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭で、これらの学習成果をまとめ、グループ発表として、生徒・保護者の前でプレゼンをすることができたかどうか。 進路講演会用プリントにおける記入状況を把握すること。 生徒が積極的に取り組むことができたかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭におけるプレゼン力は、毎年向上しているとの保護者の声がよせられた。 講演会では、生徒からの質問が数多く出され、講師から生徒への一方通行でなく、双方向からなされ、しっかりと聞くことができていた。 専門分野の出前授業により、正しい知識と正しい実習によって、これまでの知識が定着し、なおかつ、興味関心が促進された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに、キャリア教育の目標に沿った内容を精選し、形が徐々に出来上がりつつあるので、これを次年度に向けて、確立できるように検討していくこと。 将来に向けての職業理解を深めるためには、個別企業に実際務めている人の生の声を直接聞くことは、有意義であり、今後の進路選択にも大いに役立つものなので、継続の必要性がある。年3回の進路講演会を目指して、日程や講師選定の調節がなかなか思うようにはいかない面があるが、年2回の確保を目指していくこと。
3	<ul style="list-style-type: none"> 人間性豊かで周囲から信頼されるためには、そのバックボーンとなるのが、教養あふれる人になることに気づかせ、集団生活で大事な思いやりの気持ちをどう育てるか。 いじめに対する学校の取り組み方を高校と連携して行うこと。併せて、携帯・インターネットの適切な使用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間性豊かな生徒の育成 信頼される生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間やLHRのほかに、朝・帰りのSHRのより充実した時間となるように考える。 必要に応じて、各学年ごとに学年集会を設ける工夫をすること。 いじめ対策マニュアルの検証といじめをなくす努力をする。 携帯・ネット講話による、適切な使用方法を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校・下校時における生徒の行動が、適切に行われているかどうか。 問題行動があった場合、迅速に対応できたかどうか。 学年をこえて、生徒どうしが協力し合っているかどうか。 携帯・ネットが正しく使用され、生徒間のトラブルがないかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ校外でのマナー違反で、苦情が寄せられる場面があるが、中には、後輩が具合が悪くなった時に、先輩が面倒を見てやったことが、報告されている。 必要に応じて、学年集会が行われた。また、全校生徒が集まったときに、時間を取って、マナーに関する注意喚起を促すことがあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校外でのマナー向上に向けて、クラス単位での、注意喚起を促すだけでなく、学年単位や全校での生徒集会を実施するなどの機会を今後増やしていくべきである。個人のレベルはもちろんのこと、生徒同士でも、注意し合える雰囲気作りが今後の課題である。 携帯、インターネット上におけるトラブルのもとになる書き込みや逸脱行為がないかどうか。学校の取り組みの可能な部分の検討が必要である。